

ぐんま教師塾 1年を振り返って



小学校 国語班 研修員

高崎市立倉渕東小学校 茂原 剛
館林市立第六小学校 大澤 聡
長野原町立第一小学校 高橋 礼子

班別研修の所感

VTRでの授業研究や指導案検討会、授業研究会を行い、観点を決めて積極的に話し合うことにより、それぞれの自己課題への理解が深まり、解決策のイメージが具体的になった。また、研修内容について客観的にとらえながら、互いのよさや改善点を見つけ、実践に生かすことができた。さらに、様々な話題で意見交流を行うことで、発問や指示など指導技術の向上が図られるとともに、教師としての在り方についても考えることができた。グループで学び合うことのよさを実感した研修となった。

講義や講話の所感

臨床心理士、アナウンサー、塾講師、現職の中学校教諭、大学の准教授、教育行政関係者等の多彩な講師陣から、教育の現状や今後の方向性、現代の教育に期待されていること等の多種多様な講義を受けることができた。趣向を凝らした講義や演習は、実体験に裏付けられた説得力をもち、感銘を受けた。さらに、学んだことをその後の授業や保護者懇談会に生かすことができた。これらを受講したことにより、教師という部分はもちろん、人間としての幅も広がったように感じた。こうした経験を今後の実践に生かしていきたい。

授業参加協力校での参観の所感

(伊勢崎市立殖蓮小学校 岡崎久美子教諭)

参観した学級の児童が音読する姿を見て、日頃の指導が定着していると感じた。音読の約束として本を持つ位置や両手を伸ばして読むことなどを確認したり、音読をしている児童一人一人に声をかけたりするなど、きめ細やかな指導が行われていた。

また、補助発問の使い方が効果的であり、児童がねらいを意識して活動する姿が目立っていた。授業の後半では、児童が文章構造にまで意識を向けながら中心となる文を探し、その根拠についても話し合っていた。班員それぞれの自己課題解決に向けて大変参考になった授業であった。

授業実践とその参観の所感

視点：児童が話し合い活動に主体的に取り組む支援の工夫

授業実践を行った学級では、児童が自主的に席を立ち、発言の内容や回数に応じて、その優先順位を決める約束が定着している。また、1対1の対話、グループでの話し合い、クラスでの話し合いと、スモールステップで確実に意見を述べる力が高められた。その結果、4月当初に比べ、全員が発言するようになり、深まりのある意見も出されるようになった。教師が児童の意見を補足することも少なくなった。そのため、児童同士が話し合いによって解決しようとする雰囲気が高まっている。この活動を児童相互の評価活動につなげ、更に自力解決を促す活動に発展させていくことが課題としてあげられた。

担当指導主事
いじめ対策グループ
田村 克美

